

【ねがいましては】

平成13年5月25日

第135号

KYOWA SCHOOL

「風景1」

二人がスコップと軍手を仲良く使って土ほじり・・・

これ実は、高校生と中学生のある日の光景・・・

私がタンポポの種を買ってきたので、種まき準備に教室の角のドクダミさんが生い茂る所を耕してくれています。世間話に花が咲いているのか、楽しそうな声が聞こえてきます。

普通に育ってくれば、直径約30センチの花が咲くのだそうです。

ある日私はそのことを、以前より親しくしていただいている先輩の先生にお話した所、「私もそんな風景を常々理想としているんです。土の香りのする教室作りがしたいんですよ。」・・・

『土の香り』うまい表現だな。私はかねてから理想としていたことを思い出しました。

緑の風景広がる、川の匂い・空の匂い・風の匂いが、私も含め子供たちにそっと触れ、無邪気な笑い声がそれらとたわむれ、周りの大人たちはそんな風景に心を洗われ思わず笑みがこぼれる。

そこには勉強を「競争」で行うこともなく、助け合う「勉強」があり、なによりも、どれよりも、大きな大きな大自然から送られる「癒し」があります。

今の都会の中ではおそらく出会うことのない風景でしょう。

以前、何かの雑誌で読んだ中に、こんなエッセイがありました。

発展途上の貧しい国々には、多くの子供たちが溢れています。なぜなんだろうと考えた私は、ひとつ気がついたことがあります。職を失った大人たちが多く彷徨う中で、明日の食料もおぼつかない暮らしの中で、彼らはいったい何に希望をつなげることが出来るのか。これだ、子供たちだ。子供たちの「笑顔」に唯一彼らは明日を見つめることが出来ている。子供たちの笑顔・・・彼らに残された、生きる最後の糧なのだ。というようなものでした。

子供たちは言葉がまだまだ不十分です。自分が感じていること、自分が訴えたいことを上手に表現できません。きっとこんな中でびのびとした気持ちで日々を送りたがっているのだと思います。

あの2000年キャンプでの、びっくりするような子供たちの表情がそれを裏付けています。

そういえば、ここにはそんな『土の香り』のする子がほとんどなんだなと、私の心に笑みがちょろちょろ・・・

「流されるなよ、流されるなよ。」と口癖のように私はよく言います。まわりが・・・だから私も・・・。これとても不幸な不幸な人生の始まり。ドクダミくさくなった服をひっさげて、教室へ入るなり、「ねえ、ドクダミくさくない?」「平気?」と、とても不安そう。でも本人はいたって満足そう。

実はこの二人、女の子たちです。やさしさのかったまりさん。自分に負けないよう、日々歩こうね。きっと抱えきれない幸せがあなたがたに近づいてくることを私は楽しみにしています。

6月の予定

4日(月)・・・珠算・暗算検定試験合格発表

15日(金)・・・県民の日でお休み

- * 自分歩きで、楽しく勉強・そろばんしてみませんか。みんながひとつの家族状態・・・そんな風景しかありませんけど、あったかいのです。よろしく!